



文学部 歴史学科

文化財・考古学コース

FACULTY OF LITERATURE
DEPARTMENT OF HISTORY
CULTURAL HERITAGE AND ARCHAEOLOGICAL STUDIES COURSE

学びの分野

文化財(美術史・工芸史)

考古学

博物館学

文化財保存学

こんなキミに学んでほしい

日本・東洋の美術品・工芸品や考古遺物(遺跡や出土品)、博物館・美術館・古社寺などに興味がある人
日本・東洋の歴史や文化を学ぶ意欲があり、疑問に対して自ら行動・解決しようとする人
博物館資料を適切に扱うための知識と技術を学びたい人
または学芸員資格を取得したいと考えている人
美術品・工芸品や考古遺物の観察と分析をとおして事実を明らかにする思考力を身につけたい人

ワンポイントアドバイス

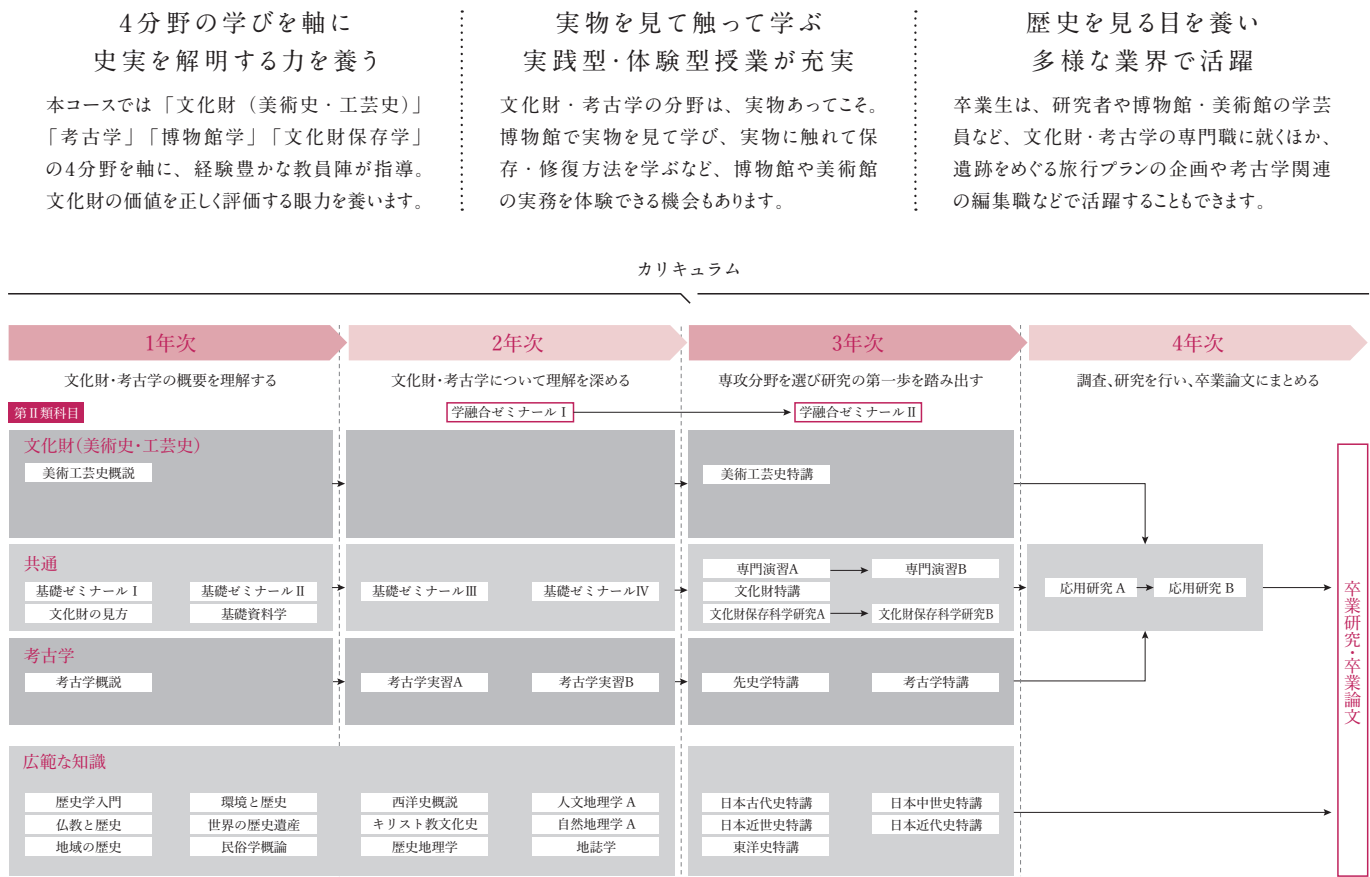
「こうすればもっとわかりやすいのに」「ここをもっと知りたいのに」
そう博物館や美術館で感じられるとしたら文化財を扱う専門職の資質アリです。
このコースで本格的に勉強してみませんか?

このコースがめざすこと

過去を未来に伝える語り部に

文化財・考古学コースでは、発掘されたモノの製作年代を特定することをはじめ、当時の社会や生活、思想を分析し、エビデンスとともに未来へと継承する方法を考えていきます。例えば、各地の文化遺産は地域活性化に大きな役割を果たしますが、そのためには適切な保存・管理方法を見極めるとともに、多くの人々に魅力を伝える方法を企画して実行する必要があります。それを仕事にするのが博物館の学芸員や考古調査士。本コースなら在学中に経験を積み、資格取得を経て専門職人材へと成長することができます。

3つのポイント





文化財・考古学コースの“学びのフィールド”



考古学実習

発掘調査で出土した遺物を整理し、報告書を作成するまでに必要な各種の技術を習得することをめざします。破損した遺物の修復方法や考古資料の撮影技術、土器・石器の実測図作成、文様を写し取る拓本の技法などを学習。学術報告ができるスキルを身につけます。

私の理論×実践

展示の基本を学び、自分なりの見せ方を考える。

私は学芸員や考古調査士の資格を取得し、将来は博物館展示に携わることが目標です。授業では、繊細な浮世絵を展示する際には角度や明るさが重要であり、明るさは作品を傷つける異物の発見にも重要だと学習。展示物によって劣化条件が異なるため、厳格に室温や湿度を管理する大切さも学んでいます。ただ、実際に博物館を訪れると、湿度管理のための除湿剤が目立つケースなど、見せ方に改善の余地がある場合もあり、自分ならどう展示するのかを想像力を働かせながら観賞するようになった点に、我ながら成長を感じています。

TOPIC

考古調査士や学芸員をめざす

文化財・考古学コースでは、博物館での絵画や工芸などの文化財展示を想定した「展示論」、野外での遺跡の測量技術を学ぶ「考古学実習」など、学芸員や考古調査士の資格取得に必要な知識や技術を修得する科目が充実しています。専門職人材として多くの卒業生を輩出してきた指導ノウハウを存分に生かしたカリキュラムになっています。



卒業論文一例

- 石鏃と動物遺存体からみる縄文時代中期～後期の狩猟活動
- 終末期古墳について
― 八角墳を中心に ―
- 正倉院宝物海獣葡萄鏡について
- 東寺講堂五大明王像について
- 関東の戦国城郭の築城技術
― 石垣を中心に ―

担当教員			
名前	職階	専門	研究内容
塚田 良道	教授	考古学、博物館学	植輪や壁画など古墳時代の造形と絵画の研究、古代における日本列島と東アジアとの関係
富井 眞	教授	考古学、先史学	先史学・考古学の方法。過去の人間の、行為や行動、自然との関わり
大島 幸代	専任講師	仏教美術史	日本や東アジアの仏像や仏画の研究

シラバス



<https://www.tais.ac.jp/faculty/syllabus/>

教員情報



<https://www.tais.ac.jp/chinavi/>